

かずさの博物誌

オオジュリン (大寿林)

～冬のヨシ原に隠れ棲む～

文・写真／成田篤彦



©成田篤彦

アシ原を飛ぶオオジュリン

春になると雄は頭が黒っぽくなる。
=2008年3月8日木更津市
(成田篤彦撮影)

去年の冬、小櫃川の下流域の土手を歩いていた。河川敷のヨシ原の緑が初夏にあれほど生命力を感じさせたのに今は枯れ果て、灰色一色になつていた。

その時、かすかに「ピチ、ピチ」という音がした。耳をすますと川の岸のヨシの藪から聞こえてくる。その時、茎の間をパッと飛ぶスズメのような小鳥が見えた。胸に斑点があり、ヨシの茎の色と比較して背がやや鮮やかな赤い褐色や黒色をしているが、淡い褐色の羽色がヨシのそれとほとんど変わらない。密に生える茎が邪魔になつて全身が見えない。だが、茎にくちばしを差し込み、ねじまげるようにして皮をはがし取る。その時、「ピチ」という音が聞こえ

今年の冬、小櫃川の下流域の土手を歩いていた。河川敷のヨシ原の緑が初夏にあれほど生命力を感じさせたのに今は枯れ果て、灰色一色になつていた。

その時、かすかに「ピチ、ピチ」という音がした。耳をすますと川の岸のヨシの藪から聞こえてくる。その時、茎の間をパッと飛ぶスズメの

た。そして、それをくわえてこちらを見て警戒している。あちこちに皮がはがされた茎の白い(髓)が見える。彼らはこのずいに棲む虫を餌にしているらしい。そして、茎を両足でつかみ跳びながら素早く上つていく。

先端にとまり、川風に吹かれてゆらゆらと揺れている。その姿は上総の冬の素朴なおもむきを感じさせた。

さて、野鳥を覚えるには探鳥会で専門家に姿と鳴き声を同時に教わるのが一番確かではやい。「ホオジロの仲間か?」とは思つたが、普段、

見ていてカシラダカでもないし、ホオジロの子供でもない。独学の悲しさで、図鑑を見てもわからない。しかし、早春に蓮田のヨシ原で「ピチ、ピチ」という音が聞こえた。

急いで探し出し、撮影してよく見ると頭や喉が黒っぽい。

風でひるがえった茶色の頭の羽毛の下に黒い羽毛が見えるのもいた。

「あ! オオジュリンでは?」

と思った。かつて秋田県で見

たことがあつた。早速、知り合いの専門家に写真を送付し

て確かめもらつた。「オオ

ジュリンで間違いありません。」

との回答があつた。

上総ではオオジュリンは10

月ごろから4月下旬ごろまで

河川の下流域や河口や海岸など

の湿地のヨシ原で見られる。

この種はホオジロのなかまの



©成田篤彦

オオジュリン 冬羽 スズメ目ホオジロ科千葉県指定一般保護動物
大きさはスズメぐらい。上総では10~4月下旬に見られる。
=2007年3月7日木更津市 (成田篤彦撮影)

北海道の湿地で繁殖する時には地味な冬羽が一変し、黒い頭や赤褐色の背がつやつやして美しいという。

皆さんも上総の水辺で「ピチ、ピチ」という音を聞いたら目を凝らしてオオジュリンを探してみてはいかがでしょうか。